



赤間 英一

勤務先：

株式会社 檜崎製作所

設計部 設計二課

〒050-8570 室蘭市崎守町

385 番地

TEL 0143-59-5132

FAX 0143-59-3906

E-mail : e.akama@narasaki-ss.co.jp

専門：機械部門（建設機械）

1. 自己紹介

私は、1965年（昭和40年）伊達市の農家の長男として生まれました。小学校から大学まで、地元を離れることもなく伊達、室蘭で過ごし、平成元年に室蘭市の檜崎製作所に入社しました。

両親は、伊達市で酪農と畑作を中心に行っており子供の時は、農家の長男という事から、気がつくとも毎日搾乳や畑仕事ばかりやっていました。そのせいか、そのころから太陽の下で働く仕事をしたくないと漠然と考えていました。ただ農機具などを修理したり、改造するのが好きでした。それが現在の仕事に繋がっているのだと思います。

入社以来、鋼橋の様な土木構造物の設計から、油圧ポンプの様な機械の設計まで、2、3年毎にそれまでとは違う多種多様な仕事に取り組んできました。それは、試験申し込みの経歴書を書く時、自分は果たして何屋なんだろう？と考えてしまうほどでした。事実、技術士二次試験の面接試験の時にも、面接官から「君は、機械屋なの？ 土木屋なの？」と聞かれてしまうほどでした。

今は、月曜から金曜は会社員、週末は農家という状況です。子供の時は、あれほどイヤだったはずの農作業が、最近いわれている「癒しの場」に成りつつあります。

また、いま当社では、従来から取り組んでいた建設系の排水処理に加え、農業・漁業の排水浄化処理の分野にも積極的に取り組んでいます。これに対し、

設計者の視点に加え、利用者（農家）としての視点からも考えることができ、良い環境に恵まれていることを強く感じています。

2. 技術士試験

技術士は、大学時代の恩師が、技術士であったため、そのころから取得しようと考えていました。入社後、まず1次試験を受けようと考え、平成3年に受験し、運良く一回目で合格しました。しかしここからが長くかかってしまいました。

前述のように2、3年毎に主業務が、大きく変わってしまうことが10年以上続いており、またそのころは、身近に先輩技術士がいなかったせいか、受験意欲が薄れていました。そのため受験の申し込みはしても、試験当日は欠席するというのを何度も繰り返していました。

平成15年の秋になり、会社の体制が変わり、それに伴い社内の改革委員会が発足し、私はその事務局に任命されました。その委員会のリーダーが技術士で、その事務局業務を進める中で、自然と論文のまとめ型と速記のトレーニングを受けることができました。そんな中で、平成16年度は、とりあえず受けるだけという、軽い気持ちで受験に望みました。ところが、運良く筆記試験、口頭試験を合格することができました。

3. 最後に

一次試験合格後、北海道技術士センターの準会員となり、センターから配布される、コンサルタンツ北海道の中の「技術士第二次試験に合格して」は読者としていつも見ていました。でもそれは、とても遠い世界の話のように感じていました。それが今こうして原稿を書いていると、本当に技術士になったのだという実感がわいてきています。

これからは技術士会等を通して、諸先輩方とお会いする機会も増えるかと思えます。どうぞ御指導をよろしくお願い致します。

最後に、このような、投稿の機会をいただきありがとうございました。